

令和3年度

板野南小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 話す・聞く、書く、読む力を高める。(目的意識を持ち、筋道を立てて自分の考えを伝える。)
- 主体的に学習に取り組むことができる児童の育成。

学力向上検討委員会構成

- | | | | |
|-----------------|----|---------------------------|-------------|
| 学力向上推進員
北尾教子 | 委員 | ・教頭 元木佳広 | ・研修主任 寒川かおり |
| | | ・教務主任、特別支援教育コーディネーター 上田誉子 | |
| | | ・人権教育主事 久米慶季 | |
| | | | |

校長

吉野 育也

【小中連携または中高連携における共通の取組】

授業において、児童の見方・考え方を働かせる取組みをする。

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字・計算等の基礎的・基本的な知識・技能は定着しつつあり、与えられた課題にもまじめに取り組む児童が多い。 ●文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付け文章を書いたりすることに課題がある。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ・目的に応じて、文章の内容や意図を読み取ることができる。	・漢字・計算の反復練習をし、学力アップの時間に確認テストをする。 ・国語辞典を効果的に活用する。(3年以上) ・大切な言葉にラインを引かせることで、文章を読み取る手がかりとさせる。	・タブレットのドリル教材を活用して、定着度に応じて個別の支援を行う。 ・学習した漢字を使って、文を書く機会を増やす。	○タブレットのドリル教材では、個々の進捗状況を把握することができたので、個別指導に有効であった。 ○各教科の語彙指導において、国語辞典のみならず、タブレットによる映像・画像での検索により、語彙力の向上につながった。 ○必要な部分にラインを引くことで、文章の内容や意図が読み取れるようになってきた。	・引き続き、具体的方策の継続。 ・学力の向上につながるようなデジタル教材やドリル教材の検索・開発。 ・身につけた知識・技能を、更に活用できるような手立てを講じる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ハンドサインを活用して発表することができる。 ●自分の考えを筋道立てて的確に表現する力が不足している。	・自分の考えを根拠を明らかにして説明できる。 ・対話を通して、改善課題を出し合ったり新しいアイデアを生み出したりできる。	・ハンドサインを活用して自分の考えを伝える。 ・ホワイトボードやタブレットを活用して、自分の考えをまとめたり話し合いを行ったりする。 ・学年に適した有効な思考ツールを活用した授業を展開する。		○理由を付け足して、自分の考えを説明できるようになってきた。 ○物語文の作成時等に、タブレットで思考ツール・付箋機能を使うと、簡単に子どもたち同士も楽しみながら学習ができた。	・子どもたちの思考力を高められる効果的な思考ツールについての研修を進める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の読書や立腰タイムの実施により、基本的な学習習慣や読書週間が定着してきた。 ●自ら課題や問題点を見つけたり、考えたりしようとする意識が低い。	・めあてを持って学習に取り組む、何を学んだかを振り返ることができる。	・めあてを提示して、課題を意識させる。 ・授業終盤に、まとめ問題を解かせたりキーワードを使った振り返りを書かせたりすることで、本時の習得具合を自ら振り返らせる。		○めあてや振り返りを意識しながら、学習に取り組むことができた。	・自ら学習の振り返りをする中で、自己評価能力の育成につなげたい。

令和3年度 学力向上ロードマップ

